

再 評 価 書

事業名	地域水産物供給基盤整備事業		事業区分	甫母漁港	課名	熊野市 農林水産商工課
事業概要	工期 (下段：当初)	平成6年～ 平成22年(予定)	全体事業費 (下段：当初)	(負担率：国：県：市) 1,176百万円(1/2：1/3～1/4：1/4～1/6)		
		平成6年～ 平成17年(予定)		(負担率：国：県：市) 1,291百万円(1/2：1/4：1/4)		
事業目的及び内容						
<p>当該集落は市の中心より、最も遠く離れた遠隔地に位置し、険しい地形に囲まれ平坦地が極めて少ない、海面養殖並びに沿岸漁業を主産業とした集落です。現有漁港は、用地の不足から、漁具の保管・補修作業に支障をきたしています。また、養殖漁業を係留する施設がないため、水揚作業は生簀を二木島港の岸壁まで1隻航して行っています。湾口は熊野灘の外洋に面しており、荒天時の都度漁船を尾鷲市へ避難しているため、多大な労力を費やしています。以上のことから、比較的波浪の影響を受けにくい甫母漁港網代地区において、就労改善及び安全で安心した漁港づくりを目的とした甫母漁港改修事業を平成6年度から事業費1,291百万円で計画しました。</p> <p>平成12年度の再評価の時点での事業内容は以下の通りでした。</p> <p>外郭施設 北防波堤 L=40.0m 南防波堤(網代) L=70.0m 南防波堤(甫母) L=24.0m 北護岸 L=31.3m 係留施設 - 5.0m岸壁 L=90.0m - 3.0m岸壁 L=60.0m 輸送施設 道路 L=350.0 漁港施設用地 用地 A=4,207㎡</p>						
事業主体の再評価結果						
<p>1 再評価を行った理由 事業採択後一定期間が経過し、なお継続中ですので三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み 事業の進捗状況 事業費ベースとして、平成16年度までに全体の77.4%整備を終えており、残事業は22.6%となっています。南防波堤(甫母) 北防波堤、岸壁、道路一部、用地について整備済で、現在南防波堤(網代)と道路を整備中です。</p> <p>今後の見込み 平成13年度以降、財政状況が厳しくなっており、事業の進捗が伸び悩む傾向にありますが、コスト縮減を図り平成22年度に全体計画を完了する予定です。</p>						
<p>3 事業を巡る社会経済状況等の変化 (1) 全体計画の変更 平成6年度に、第9次漁港整備長期計画の改修事業として開始しました。平成12年の再評価時点では、平成13～17年までの次期長期計画として、5ヵ年で整備完了の予定でしたが、平成14年に漁港法の改正に伴う漁港漁場整備法の施行を受け、事業制度が再編されたこと等により、市町村営地域水産物供給基盤整備事業として、総事業費1,291百万円から1,176百万円に全体計画を見直し、115百万円減額しました。</p> <p>現在の事業内容は以下の通りです。</p> <p>外郭施設 北防波堤 L=40.0m 南防波堤(網代)L=85.0m(15.0m増) 南防波堤(甫母) L=24.0m 北護岸 L=31.3m 係留施設 - 5.0m岸壁 L=90.0m - 3.0m岸壁 L=60.0m 輸送施設 道路 L=315.0m(35.0m減) 漁港施設用地 用地 A=3,243.0㎡(964.0㎡減) 漁場整備(魚礁)4基</p> <p>(2) 周辺環境の変化 平成13年に市内6漁業協同組合の合併が実施され、新たに熊野漁業協同組合となりました。港勢状況については、登録漁船隻数は平成11年の45隻から平成15年の39隻まで減少しています。しかし、総組合員数については、近年はやや増加の傾向にあり、平成15年度の新規事業(マグロ養殖)により、I・J・Uターンの若者が増加し、今後も雇用の増加が期待されます。</p>						

(3) 財政状況の変化

厳しい財政状況によって平成 13 年度から進捗が伸び悩む傾向があります。このため、さらにコスト縮減を進めることとしています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用対効果分析

今回の再評価で、総便益額は 1,520 百万円、総費用額は 1,309 百万円となっており、費用便益率は 1.16 です。

4-2 地元の意向

地元住民からは、「南防波堤が未整備なため、船を港内に安全に係留させることができず、荒天時には網代地区ではなく、他港へ船を避難させている状態です。かつては、避難中に難破し、人命が失われた出来事もあるため、本事業の早期完成を強く望みます。」との要望を頂いております。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

工事に当たって、用地整備に必要とされる埋め立て用土砂は、隣接する二木島港内の 2 浚 渫 工事により発生する土砂を流用することにより、50 百万円のコスト縮減を図りました。今後も、道路工において再生材を使用する等コスト縮減に努めます。

5-2 代替案

現在の港の状況から、南防波堤（網代）について、代替案立案の計画はありません。また、甫母地区の背後地が集落及び急傾斜であり、かつ国道も通っているため、用地の確保が困難です。甫母地区における新たな防波堤の設置については港の構造上有益ではないと判断されます。

再 評 価 の 経 緯

平成 12 年度に再評価委員会から頂いた意見に対する対応を次の通り行っています。

(1) 漁港整備の計画に当たっては、漁港の将来のあるべき姿、漁村の将来像など、全体計画について明確化した上で、計画すること。

甫母漁港（網代地区）の将来の姿を、漁業組合、漁業者、市と協議を重ね、養殖業主体の漁港と明確化した上で計画を行っています。平成 13 年度までに岸壁、用地整備を終え、予定年度より早期の供用開始を実施しました。そのことにより、平成 15 年度から新たな事業としてマグロの養殖を開始しています。その計画の背景には、甫母漁港の現状に合わせた漁業、地域の雇用促進を図る目的があります。現在 I・J・U ターン者の雇用も行われ、漁獲高のさらなる増加が期待できます。このことにより、前回再評価後、養殖業発展、新規事業の立ち上げ等と集落全体の活性化に繋がる結果が得られました。

(2) 今後の整備に当たっては、積極的なコスト縮減の努力を行うこと。

用地整備に当たって、他事業の浚渫工事により発生する土砂を流用し、50 百万円のコストの縮減を図りました。今後は、更にコスト縮減に努めます。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条第 1 項に該当すると判断されるため、当事業を継続したいと考えています。

1 曳 航^(えいこう)：船が他の船、いかだ等を曳^ひいて移動させること。

2 浚 渫^(しゅんせつ)：船舶航行に支障をきたさない様に、航路、水路、港内などの水底の土砂を掘りとること。